

令和5年第5回小坂町議会（定例会）議事日程 第2号

令和5年9月8日（金） 午前10時開議

◎ 一 般 質 問

(1) 8番 鹿兒島 巖 君

(2) 5番 菅 原 明 雅 君

(3) 3番 本 田 佳 子 君

(4) 6番 秋 元 英 俊 君

令和 5 年 9 月 7 日 招 集

第 5 回小坂町議会（定例会）

発 言 通 告 書

発言順	議席番号	氏 名	発言の種別	出 席 要 求 者
1	8	鹿兒島 巖	一 般 質 問	町 長
(発言の要旨) 1. マイナンバーカードにかかわって 2. 農業振興にかかわって		(発言の内容) 政府は「全国民にマイナンバーカードを行き渡らせる」との号令の下、自治体に交付を急がせるとともに、2024年秋に健康保険証を廃止する方針を遮二無二に推し進めているが、この政府のやり方に対して疑問や不安・不満が顕在化してきている。 それらは、保険者、被保険者そして双方にかかわる医療や福祉の現場などから出されていると受けとめている。 また、カードの交付事務に携わる市町村へのアンケートによれば、「事務負担が重い」あるいは「カード拙速推進への不満」の声が多数であったり、「医療関係職場での困惑」が広がっていることと、健康保険証廃止の延期や撤回の声が根強い事が判明した。 こういったカード拙速推進、特に健康保険証の廃止に対してどう受け止めているか。 とりわけ、健康保険証の廃止には反対の意見具申を行うべきと考えるがどうか。 農業振興にかかわって二つの課題について質問と提案を行う。 1. 国の多面的機能支払交付金を受けて、農地維持、資源向上活動支援事業を行ってきたが、この交付金事業は今年度が最終期限となっている。 (1) 当該事業は農業者の高齢化・人口減少の中で営農を支える有効な施策として機能してきており継続が望まれているが、万が一事業打ち切りとなった場合は、町が独自に施策を継続すべきと考えるがどうか。 (2) 現在の事業では、事業計画の作成や事業実施にかかわる諸報告や経理事務等が多くまた煩雑で負担が重いと聞く、事務等の負担軽減が必要と考える。 2. 7月に開催された「第1回日本山ぶどうワインコンクール」は町の特産品として、ぶどう、そしてワインの将来性について一つの示唆を与えていただいたと受け止めていることを前提として。 (1) ぶどう栽培農家の戸数、農園の規模の現状はどうか、今後の展望とのかかわりで現状をどう捉えているか。また今後こういった規模を考え、そのための対策をどう考えているか。 (2) 営農者の集団化・組織化が必要ではないか、そのために町やワイナリーが尽力すべきと考えるがどうか。 (3) ワイナリーの事業強化、拡大の支えとなる小坂まちづくり(株)の経営体質の強化・資本強化が必要と考えるがどうか。		

発言順	議席番号	氏 名	発言の種別	出 席 要 求 者
2	5	菅 原 明 雅	一 般 質 問	町長・教育委員会の教育長
(発言の要旨) 1. 「小坂町独自の子育て支援」策について		(発言の内容) 岸田首相が「異次元の少子化対策」を掲げています。その評価はともかくとして、このまま少子高齢化が続き人口減少が進めば、国や地方自治体が厳しい状況に陥りかねない、との危機意識を共有できたことには意味があると考えます。先の6月議会で数字を示して申し述べたように、少子高齢化・人口減少は、国全体の問題ですが、都市部より地方が著しく、地方でも市部よりは郡部が甚だしい状況にあります。地方の郡部にあり少子高齢化・人口減少が続いている本町にとっては、持続可能な町づくりという観点からも少子化対策は喫緊の課題だと考えます。 移住や定住の支援で町外からの流入人口を増やす施策も重要ですが、それ以上に町外への人口の流出を防ぐ施策が重要だと私は考えています。そしてそのためには手厚い「子育て支援」が必要だと考えます。子どもとその親御さんの世代を減らさないことは、これから5年後10年後の町の存続には欠かせない視点です。 他市町村にはない「小坂町独自の子育て支援」をすることで、持続可能な町づくりにつなげていただきたい、という趣旨で以下の2点について質問提案いたします。 1. 「小坂町高校生等通学定期券補助金交付要綱」について 来春3月には小坂高校が統合され、本町の高校生は、鹿角市大館市を主とする町外の高校に通わざるをえなくなります。町は高校生への交通費を支援するということで、先の6月15日の全員協議会で「小坂町高校生等通学定期券補助金交付要綱」を示されました。「町内に居住する高校生等が通学に利用するバス及び鉄道の定期券購入に要する一部を補助する」目的で、「経費の3分の1を乗じた額」を補助するというものでした。 この要綱に関しては、「地域や部活動の関係でバス利用しない生徒も多いのではないか」、「一律支援のほうが平等で保護者にとってはありがたいのではないか」、「親の期待と行政支援のミスマッチがあれば行政不信につながりかねない」、「中学生の保護者の意見も聞いていただ		

発言順	議席番号	氏 名	発言の種別	出 席 要 求 者
2	5	菅 原 明 雅	一 般 質 問	町長・教育委員会の教育長
(発言の要旨)		(発言の内容) きたい」等、多くの議員からの意見提案がありました。年内にはより良いものに仕上げ結論を出し予算化していただきたいと要望しておりましたが、その後の進捗状況等があれば、お示し願いたい。 2. 「小坂町すこやか育児手当」について 「小坂町すこやか育児手当支給条例」(令和5年3月8日一部改正)では、小学校・中学校入学時に5万円を祝い金として支給することになっています。保護者にとってはありがたいと思います。 これに「高等学校入学時(または中学校卒業時)祝い金」を加えていただきたく、提案いたします。 「中学までの義務教育と違って、高校に入るとお金がかかる。」というのは子育てをした多くの人の実感だと思います。国でも児童手当を高校卒業時まで延長する方針です。残念ながら本町においても児童生徒数はこれからも減ってゆきます。その分一人ひとりの子どもたちに手厚い支援ができると考えるのですが、いかがでしょうか。		

発言順	議席番号	氏 名	発言の種別	出 席 要 求 者
3	3	本 田 佳 子	一 般 質 問	町 長
(発言の要旨) 1. 災害時の対応について		(発言の内容) 1. 秋田県豪雨激甚災害の被災地域の状況を受け、小坂町も同様の豪雨に見舞われた場合、被災後の対応は今のままで十分か。 2. 当町への受援対応はどのようなになっているか。 3. 被災された方への対応はどのようなになっているか。 4. 防災訓練や防災に関する研修・講習などの開催頻度、参加人数はどれくらいか。		

発言順	議席番号	氏 名	発言の種別	出 席 要 求 者
4	6	秋 元 英 俊	一 般 質 問	町長・教育委員会の教育長
(発言の要旨) 1. カスタマーハラスメントについて 2. マイナンバーカードについて 3. L G B T理解増進法について		(発言の内容) 1. 「カスタマーハラスメント」が社会的に深刻化する中で、町では、職員に対する「カスタマーハラスメント」の実態と、職員の心身の健康被害から守るための取り組みについて、どのように考えているのか。 1. 小坂町でのマイナンバーカードの普及率は？ (国や県と比較。) 2. 広報等で加入を呼びかけていますが、他にはどのような啓発を行っているのか。 (他の啓発活動によって、その普及率は効果が見られるのか。) 3. マイナンバーカードによる住民票等の発行が、コンビニエンスストアでできますが、町役場において、印鑑証明など、印鑑登録証を提示しなければ発行できない書類についても、マイナンバーカードのみで発行できないのか。 (他の市町村においては、発行できるところもあるが、町としてはどのように考えているのか。) 1. 「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」が6月23日から施行されましたが、町としてどのように理解し、啓発していくのか。 2. 同法第6条2項において、学校における教育、理解増進について、家庭及び地域住民その他の関係者の協力を得つつ実施する旨が規定されていますが、教育委員会としての教育の方向性はどのようなものか。		